習近平政権の対台湾政策
―硬軟両用アプローチの挫折―

安全保障貿易学会第30回学術大会報告

＜中国周辺地域の安全保障と輸出管理＞

2020.10.4

松田康博

東京大学東洋文化研究所

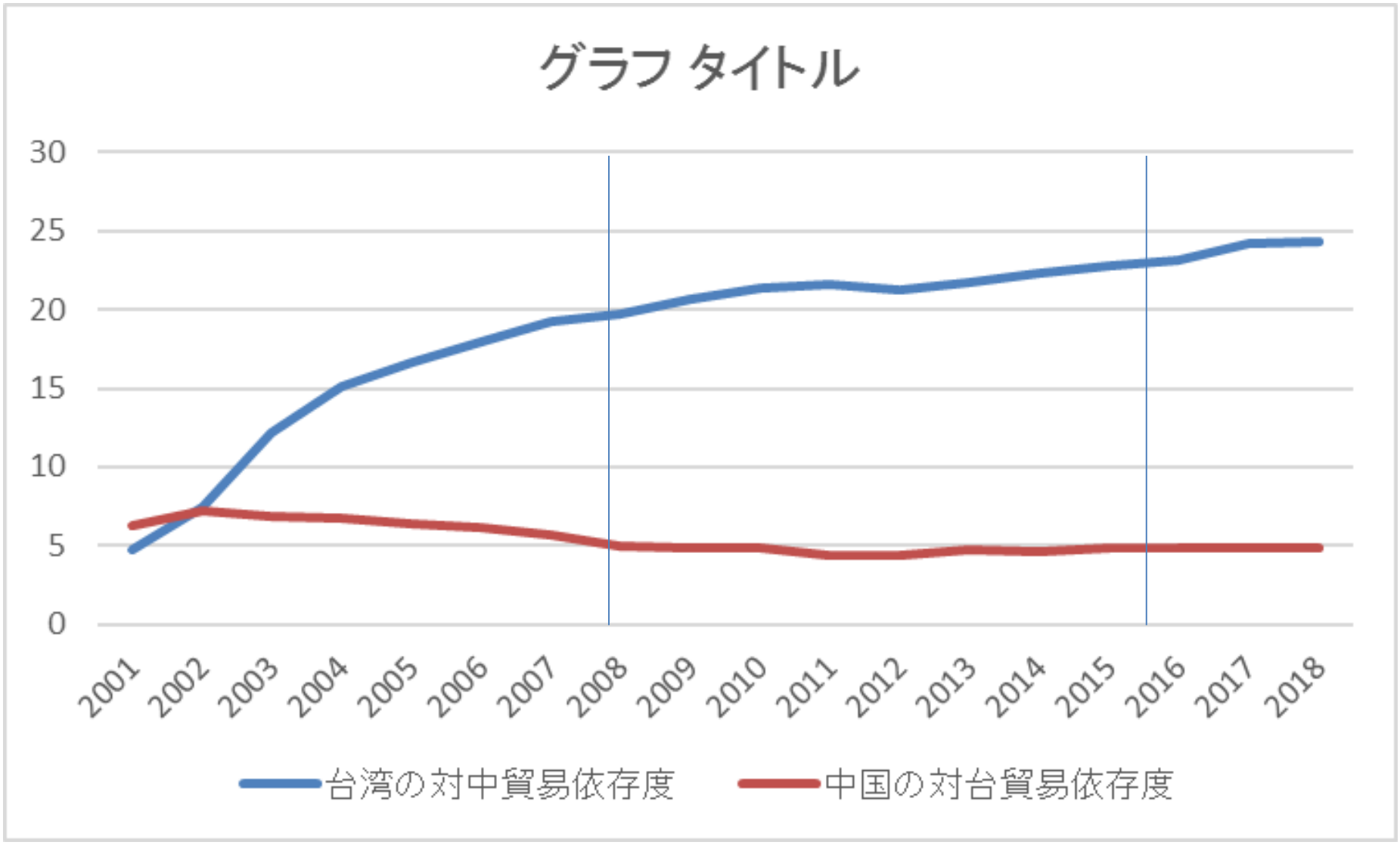
はじめに

- 台湾が直面する「繁栄と自立のディレンマ」
- 統一戦線（United Front）:「自己の戦略的任務を実現させるため、現段階の各階層や政治上の派閥、並びに団結可能な全ての階級、階層、党派、団体および社会勢力と、一定の共通利益という基礎の上に」結成する政治的連盟。共産党の対台湾統一戦線工作とは、台湾においても味方を見つけ、中間勢力を抱き込み、主要敵をたたくという様相を呈する。
- 習近平政権は、台湾社会の政治勢力をどのように分析して、どのような政策をとり、選挙結果にどのような影響を与えてきたのか？
- 統一促進vs.独立阻止＋穏健策＋強硬策（図参照）→4つの政策を導出
- 習近平政権が直面する対台湾政策における行き詰まりの構造を明らかにする

「自立と繁栄のディレンマ」

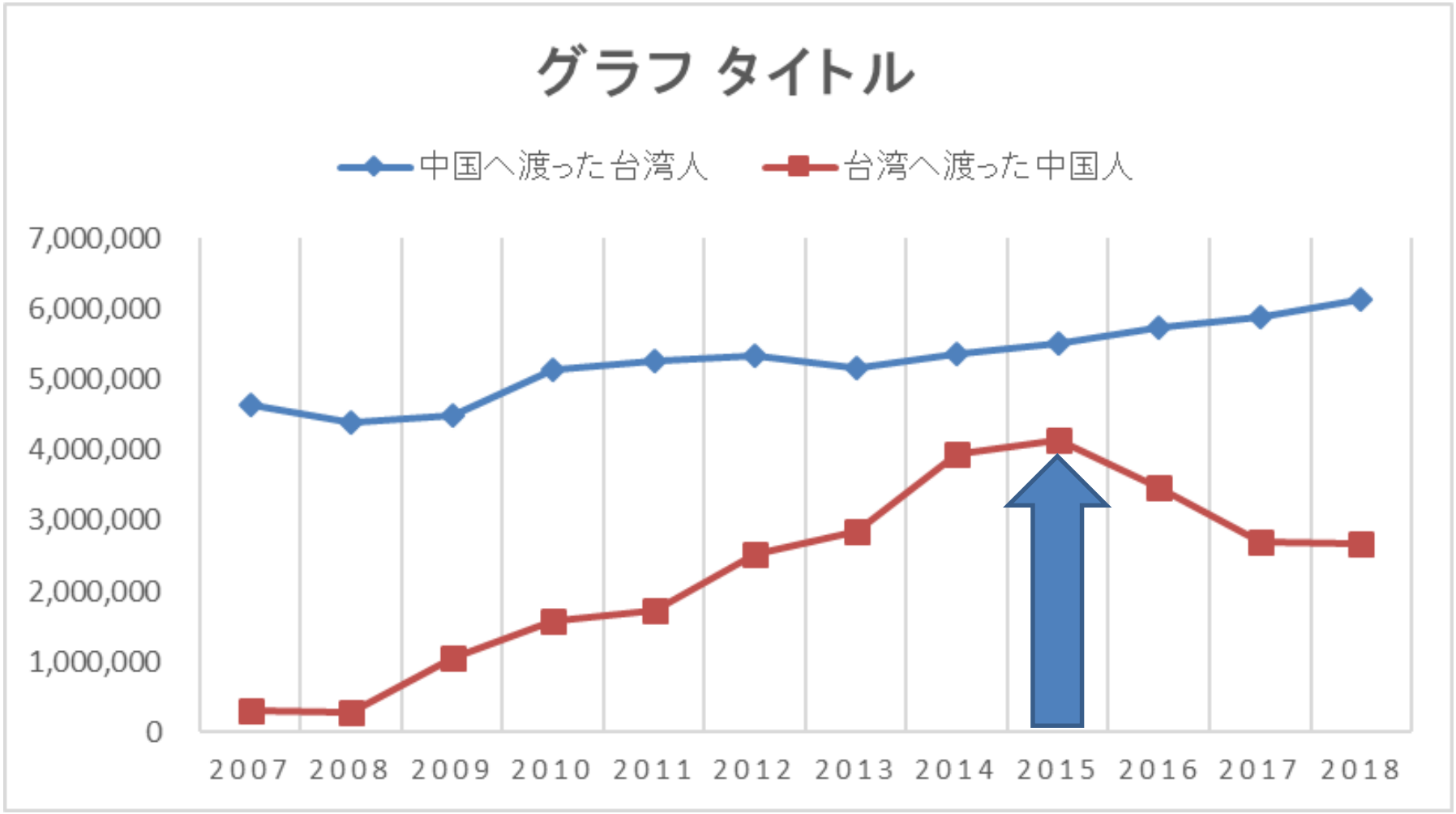
- 台湾の存在：米中関係によって左右される
- 中国の台頭：高い台湾の対中依存度、複雑な利害関係の網目（国民党と共産党の政治・経済関係）
- 陳水扁政権（2000-2008）：自立を重視して繁栄を犠牲にする？
- 馬英九政権（2008-2016）：繁栄を重視して自立を犠牲にする？
- 蔡英文（2016-）：自立も繁栄も重視。中国依存を減らし、台湾内部の改革を進め、米・日・欧との関係強化、東南アジア・南アジアへ進出（新南向政策）

中国と台湾の相手に対する貿易依存度（%）



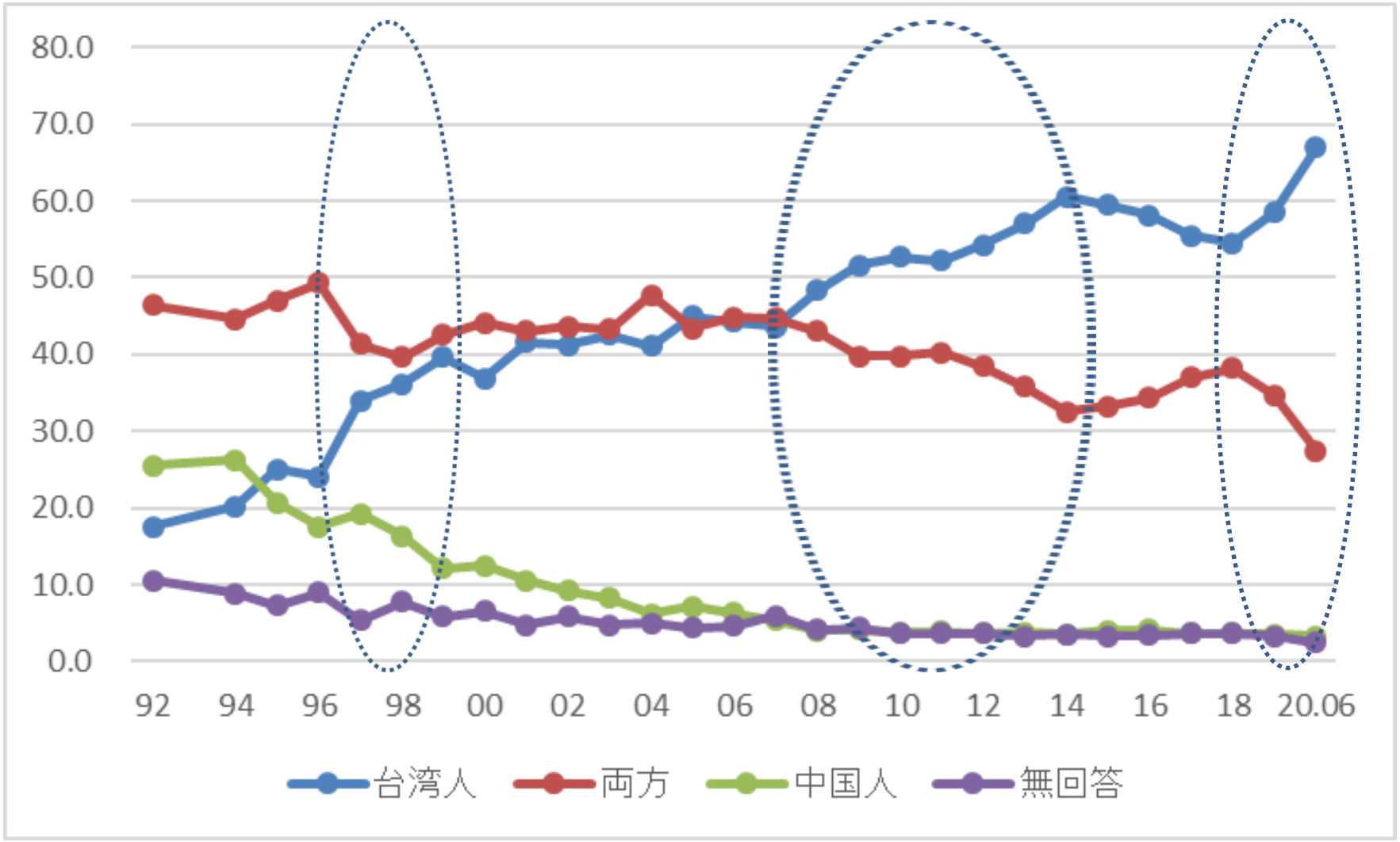
出所:「両岸貿易占外貿比重」、行政院大陸委員会『両岸経済統計月報』第320期、2019年12月、2-2。

中台間の人的往来



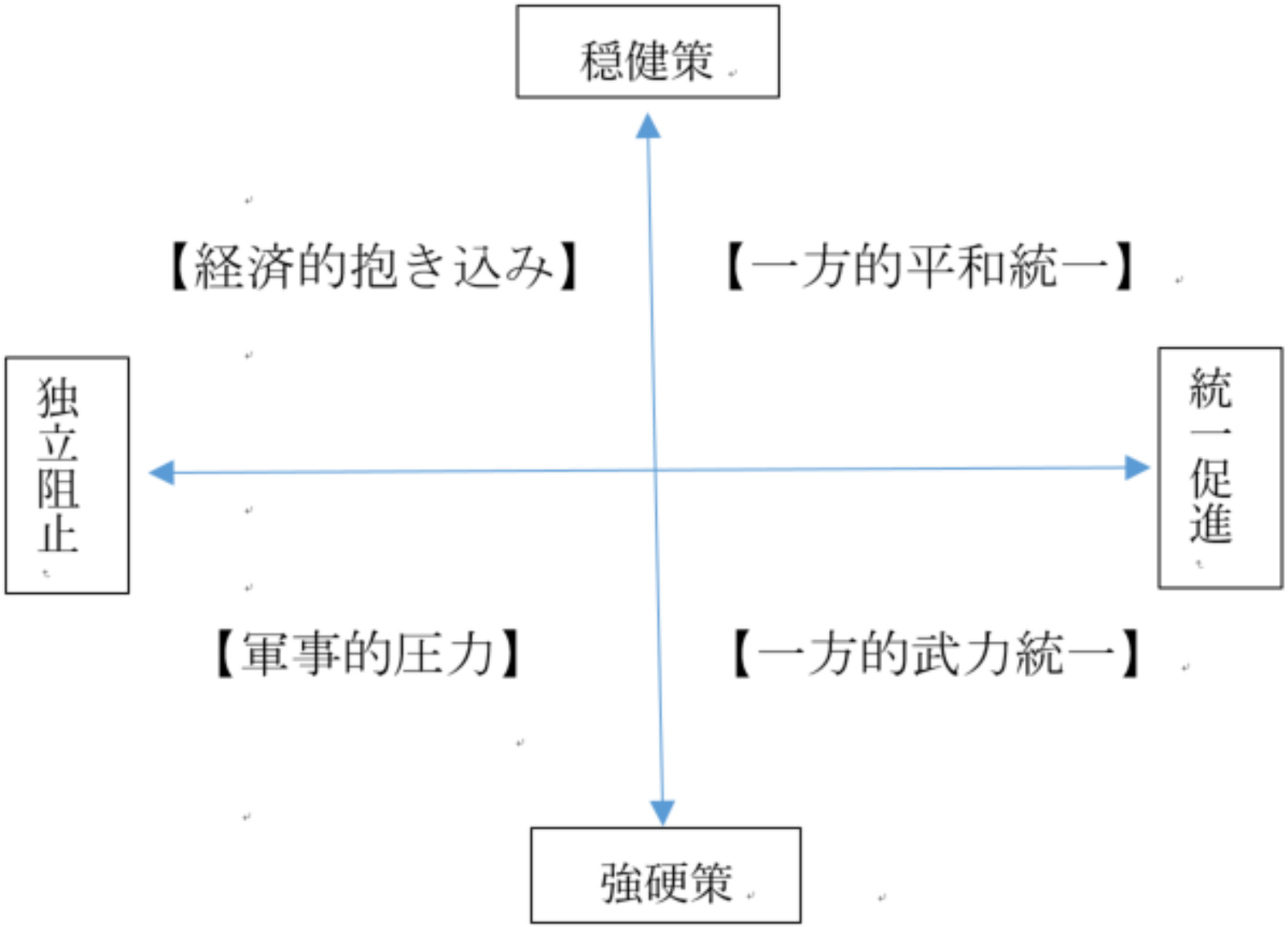
出所： 交通部観光局観光統計資料庫、https://stat.taiwan.net.tw/

台湾における台湾人／中国人アイデンティティ分布（1992.6-2020.6）



出所）https://esc.nccu.edu.tw/course/news.php?Sn=166#

図　総統選挙に関わる中国の主要な対台湾政策概念図



出所）筆者のまとめによる。

2012年総統選挙――「九二共識」の勝利

- 胡錦濤政権:「92年コンセンサス」(「九二共識」)を掲げる馬英九政権は中間派から味方へ変わりうると認識→「良好な関係にある台湾への関与政策」へ
- 「胡錦濤6項目」(「胡六点」)

  ①台湾が多国間経済協力メカニズムに入れることを示唆

  ②台湾の国際組織に関わる活動認めることを示唆

  ③「一つの中国」の原則の下で「和平協定」締結呼びかけ
- 「両岸経済協力枠組み協定」(ECFA)
- 一定の国際的空間:「外交休戦」(外交休兵)、世界保健総会(WHA)、国際民間航空機関(ICAO)、シンガポール、ニュージーランドと経済協定交渉開始
- 民進党は「九二共識」、ECFAに反対→経済界の懸念
- 馬英九再選:「九二共識」の勝利

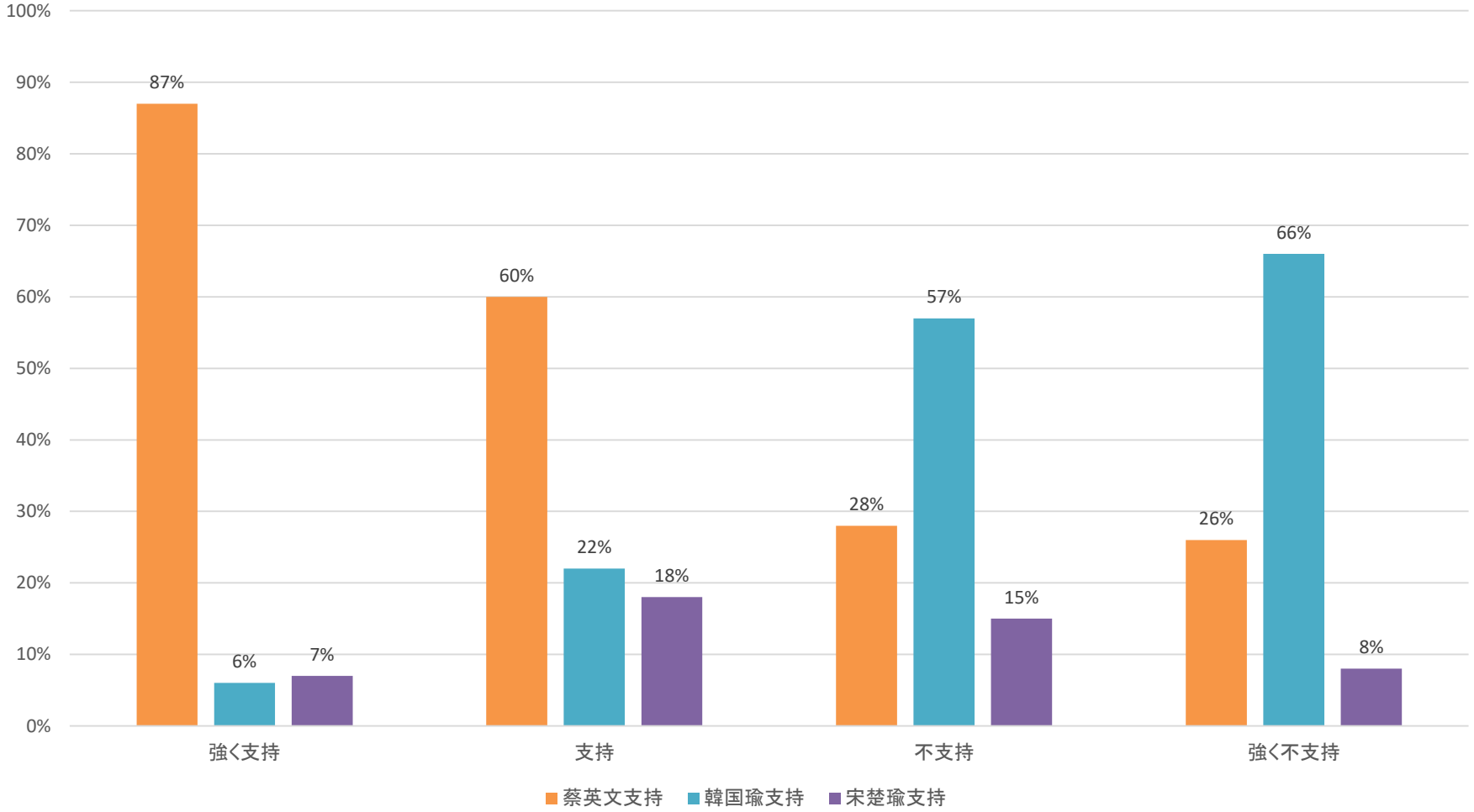
2016年選挙――「習馬会談」の実現

- 習近平政権：胡錦濤政権の政策を継承しつつ政治的交渉実現へと徐々に転換
- 「恩恵を与える政策」（「恵台政策」）：敵対関係にあった中台間で、利益供与の構造出現、「代理人問題」が発生
- 馬英九と習近平がともに経済のみならず「政治的な成果」を追求（2013以降）→国台辦と陸委会の直接接触（相互に官職で呼称）
- 「ひまわり運動」：「中国要因」が海峡両岸政商関係ネットワークと現地協力者ネットワークを通して作用力を生じたこと、そしてそれに対する台湾市民社会の反作用力と抵抗の結果（呉介民）（接触の増大と反発による第2次上昇）
- 「習馬会」：台湾社会の動向（第2次上昇）に逆行した政治ショー
- 蔡英文・民進党の地滑り的な大勝利

2020年総統選挙――「一国二制度台湾方案」から軍事的圧力へ

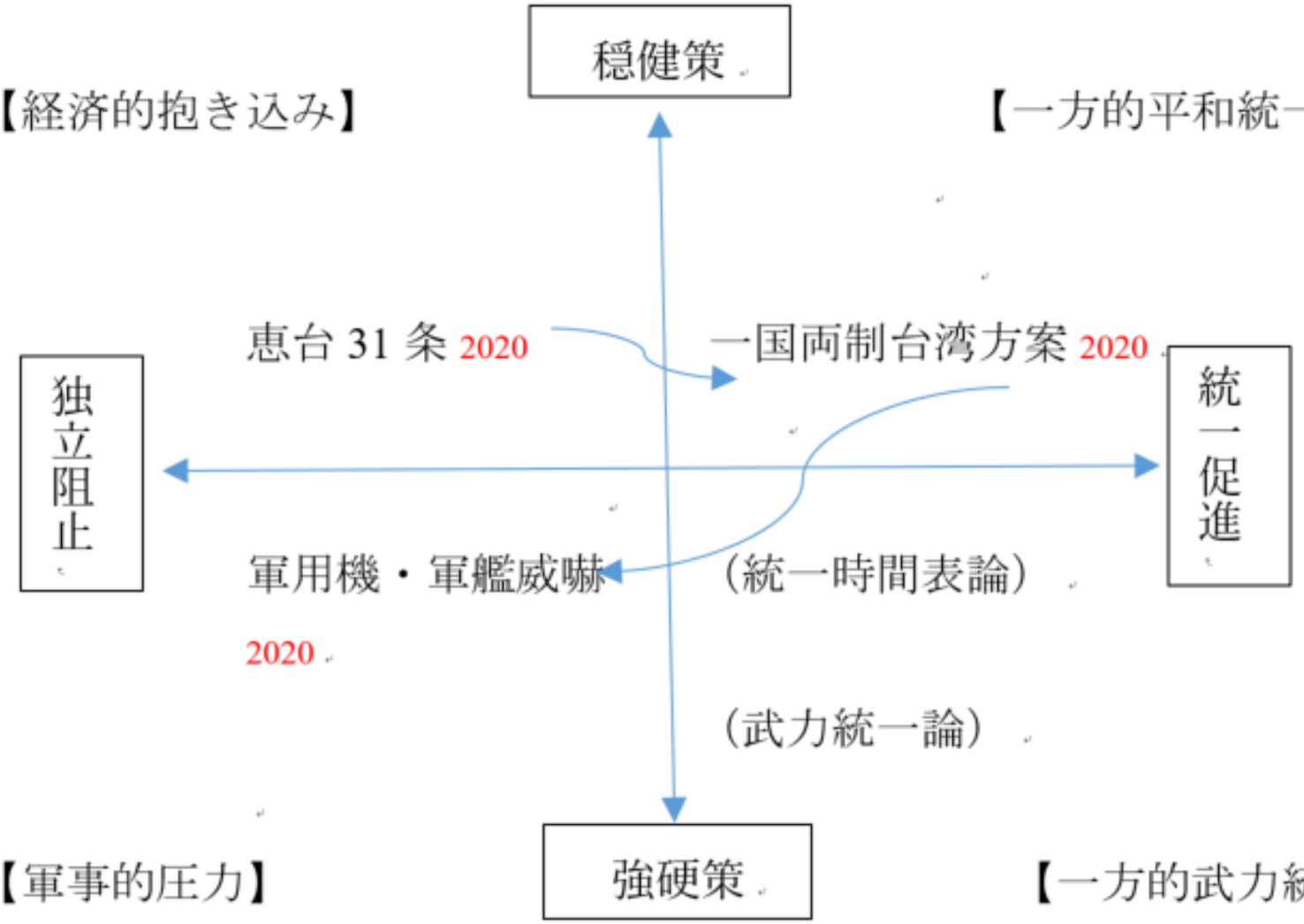
- 習近平政権：蔡英文政権は中間勢力から敵に位置すると認識
- 「習馬会」：「どのような党派、団体であろうとも、過去に何を主張したことがあっても、「『92年コンセンサス』の歴史的事実を承認し、その中核的意味に賛同しさえすれば、我々は彼らと喜んで交流する」→蔡英文の就任演説は「未完成の答案」
- 第19回党大会習近平報告：①「経済社会融合発展」に相当する内容、②両岸の「意気投合」（心霊契合）、③台湾同胞に「国民と同等の待遇」（與国民同等待遇）、④独立を強く牽制
- 「台湾に対する31項目の優遇措置」（「恵台31条」）：「投資と経済協力の領域で台湾企業に大陸企業と同等の待遇を与える」「台湾同胞が大陸で学習、創業、就職、生活をするために大陸同胞と同等の待遇を提供する」
- 地方選挙で民進党大敗後「一国二制度台湾版」（一国両制台湾方案）の呼びかけ→蔡英文による反発＋香港情勢の悪化
- 外交闘争と軍事的圧力（軍用機と軍艦の台湾周辺での威嚇）へ

各総統候補支持者のなかで香港の抗議活動に対する支持／不支持の比率



出所）林宗弘・陳志柔「817震撼：緑営大勝裡的香港因素與社会意向」
https://twstreetcorner.org/2020/01/14/linthunghongchenchihjou/

図　2020 年総統選挙に関わる中国の主要な対台湾政策



出所）筆者のまとめによる。

説明）それぞれ特徴的な政策と総統選挙が行われた年を各象限に配置した。

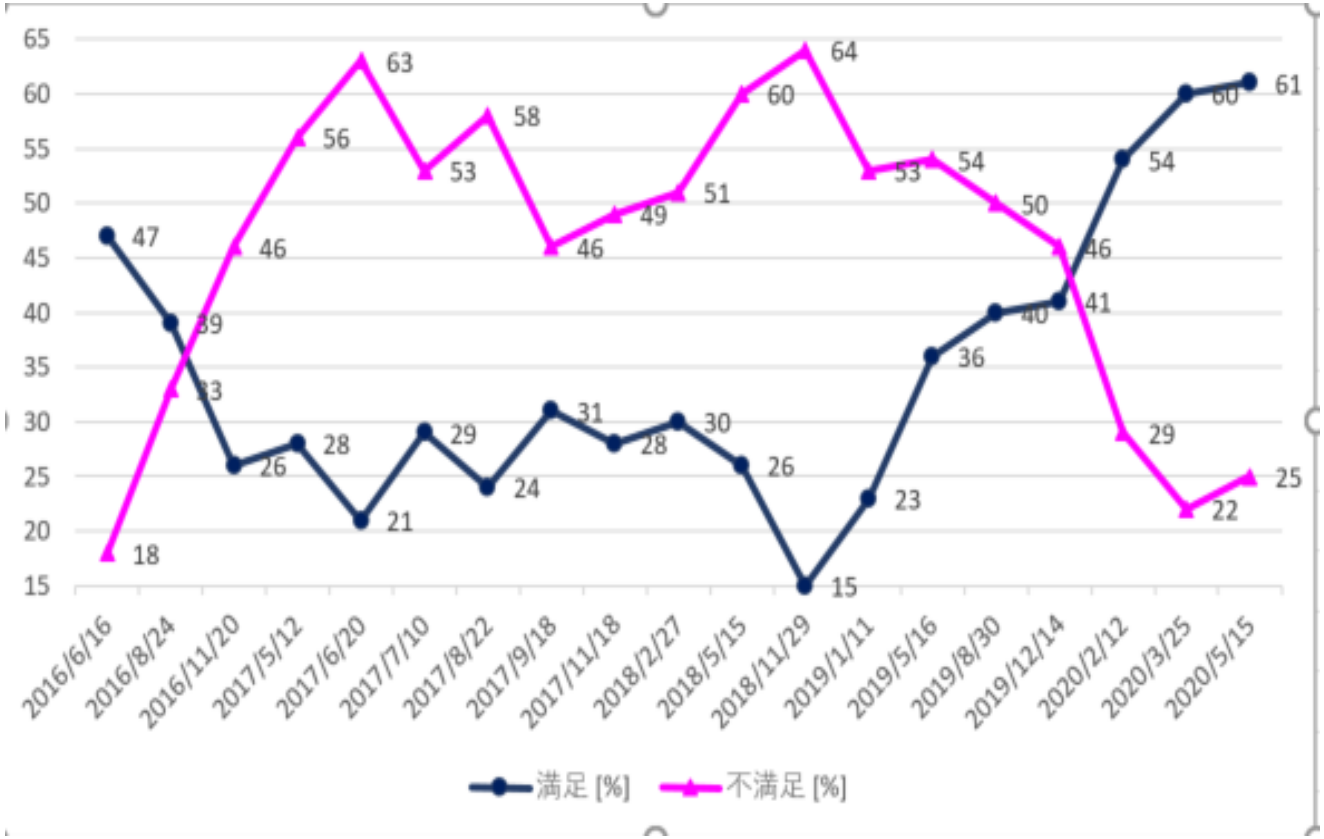
台湾のコロナ対策成功と対中イメージダウン

- 10月1日現在、台湾の感染者は515名、死者7名。そのうち大部分が帰国者の感染例であり、台湾内の感染者は55名
- 4月26日以降、入境者を除く新規感染者ゼロの記録も日々更新中
- 5月8日：プロ野球の試合が観客を入れて開始。6月に入って公共交通機関におけるマスク着用の義務も緩和され、市民は基本的に通常に近い生活
- 4-5月に行われた世論調査によると、台湾では、当局の厳格な新型コロナウイルス感染症対策への評価は97.2%。他方中国のコロナ対策を評価する者は19.8%

- 台湾のコロナ対策の成功は、高い医療・公共衛生水準に多くを負っている。SARSで死者が700名を越え、世界第2位→政府機構改革（衛生福利部、CDC、中央感染症対策指揮センター）、（強制力のある）法律の整備、中央・地方関係の再整理、医療体制および公共衛生体制の充実、住民の意識の高さ
- コロナ対策における中国のイメージ悪化：隠蔽、疫病拡散、独善的宣伝、米中関係の悪化、台湾の武漢チャーター機派遣への妨害、世界保健総会（WHA）への参加阻止、軍事的圧力増大・・・

蔡英文総統の支持率の推移（2016.6.16-2020.5.15）

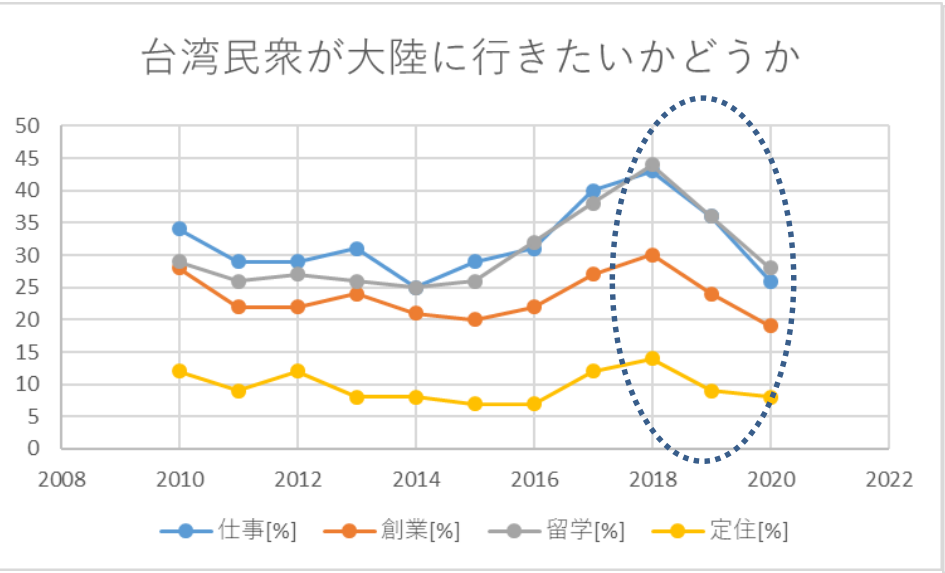
写真）
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%94%A1%E8%8B%B1%E6%96%87

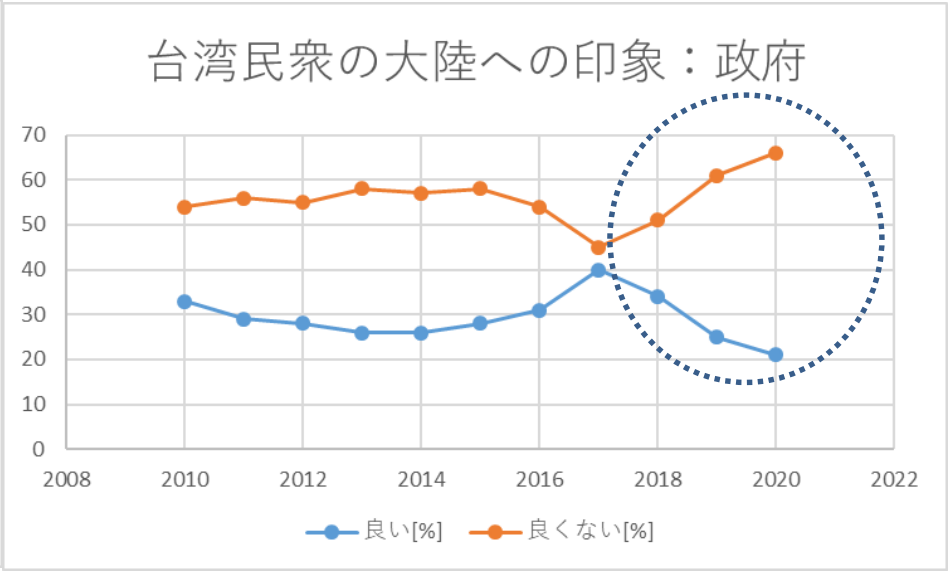


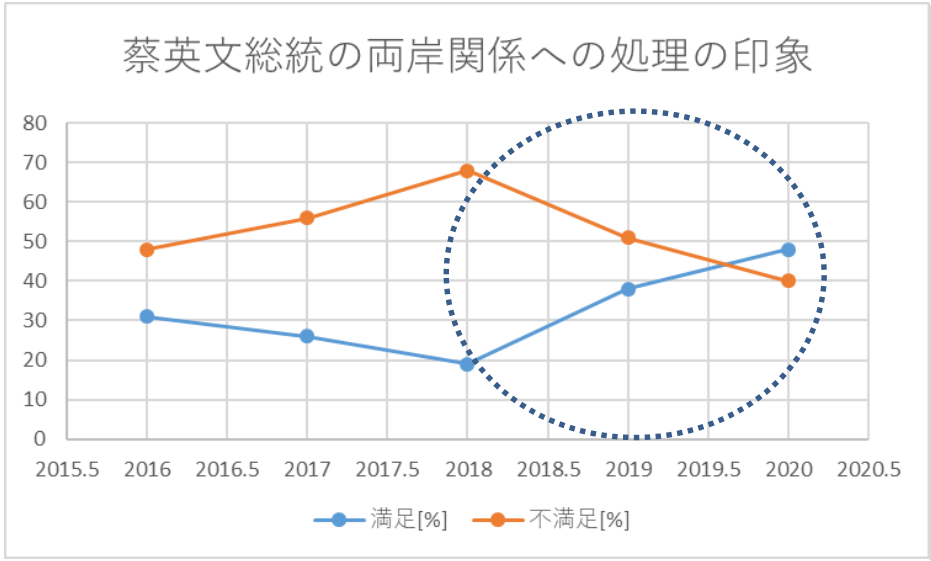
出所）「蔡英文総統連任就職満意度民調」、TVBS民意調査中心、2020年5月18日、<https://cc.tvbs.com.tw/portal/file/poll_center/2020/20200518/6fd57ec6489e3f7a2b78fb8d0e909a35.pdf>。台湾では政権に対して満足か、不満足かという設問であるが、これは支持率、不支率であるとみなされる。

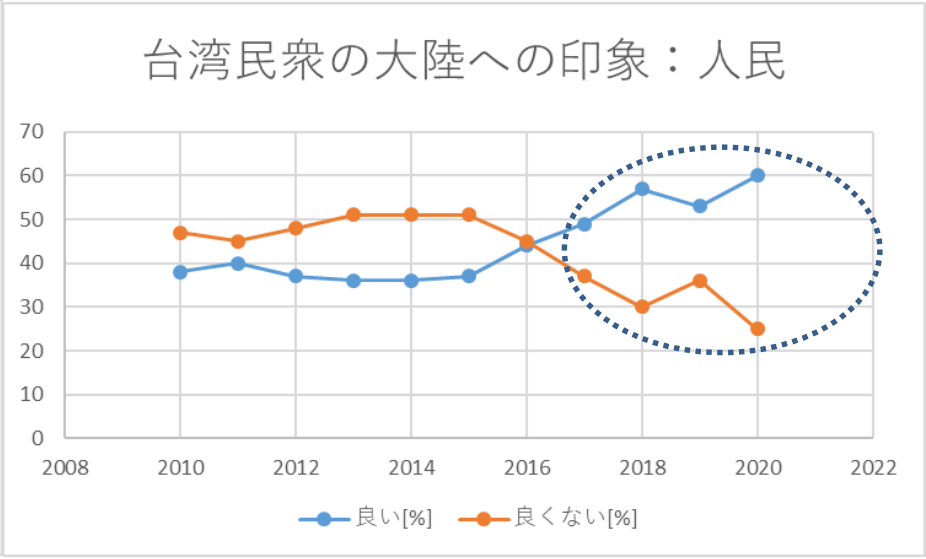
しぼむ中国への期待感

『聯合報』2020.9.28

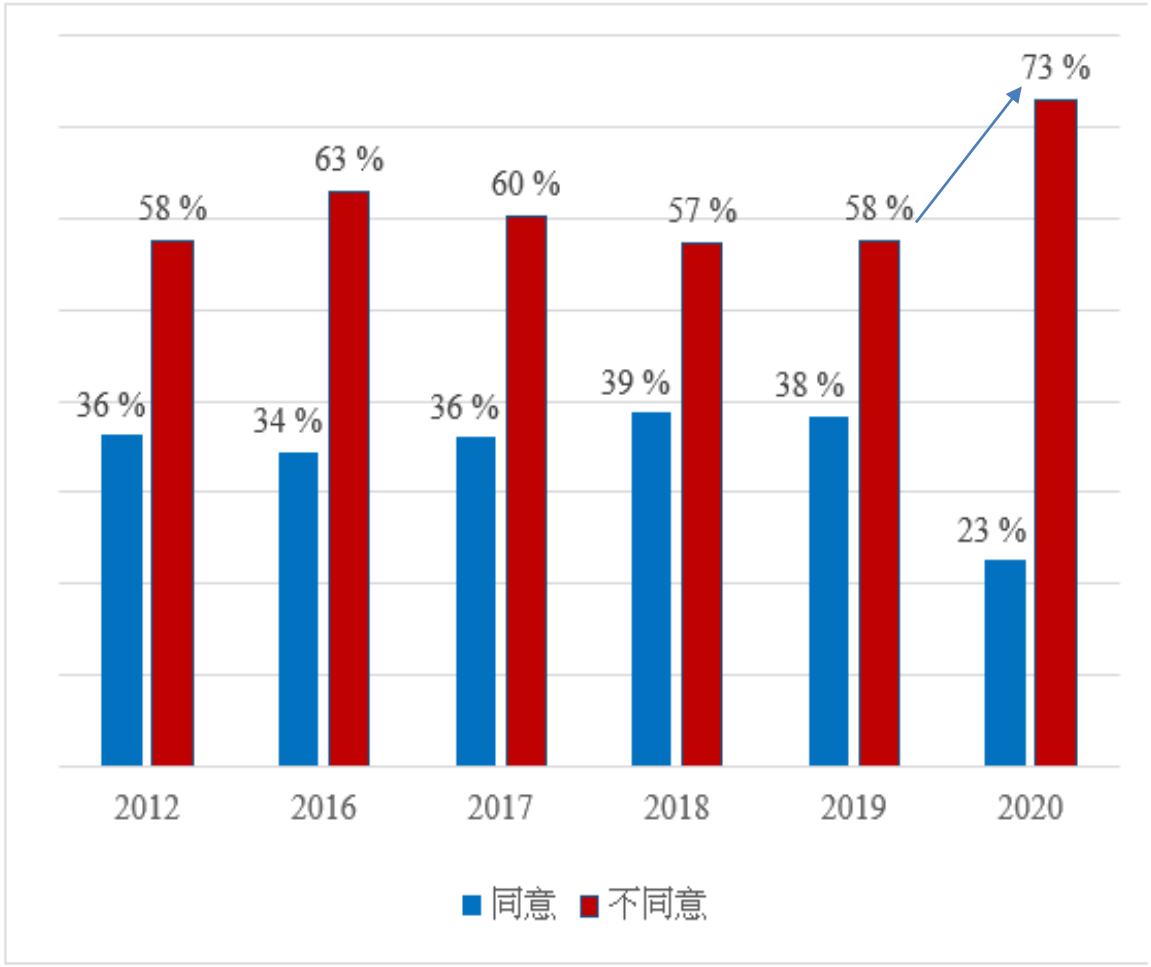








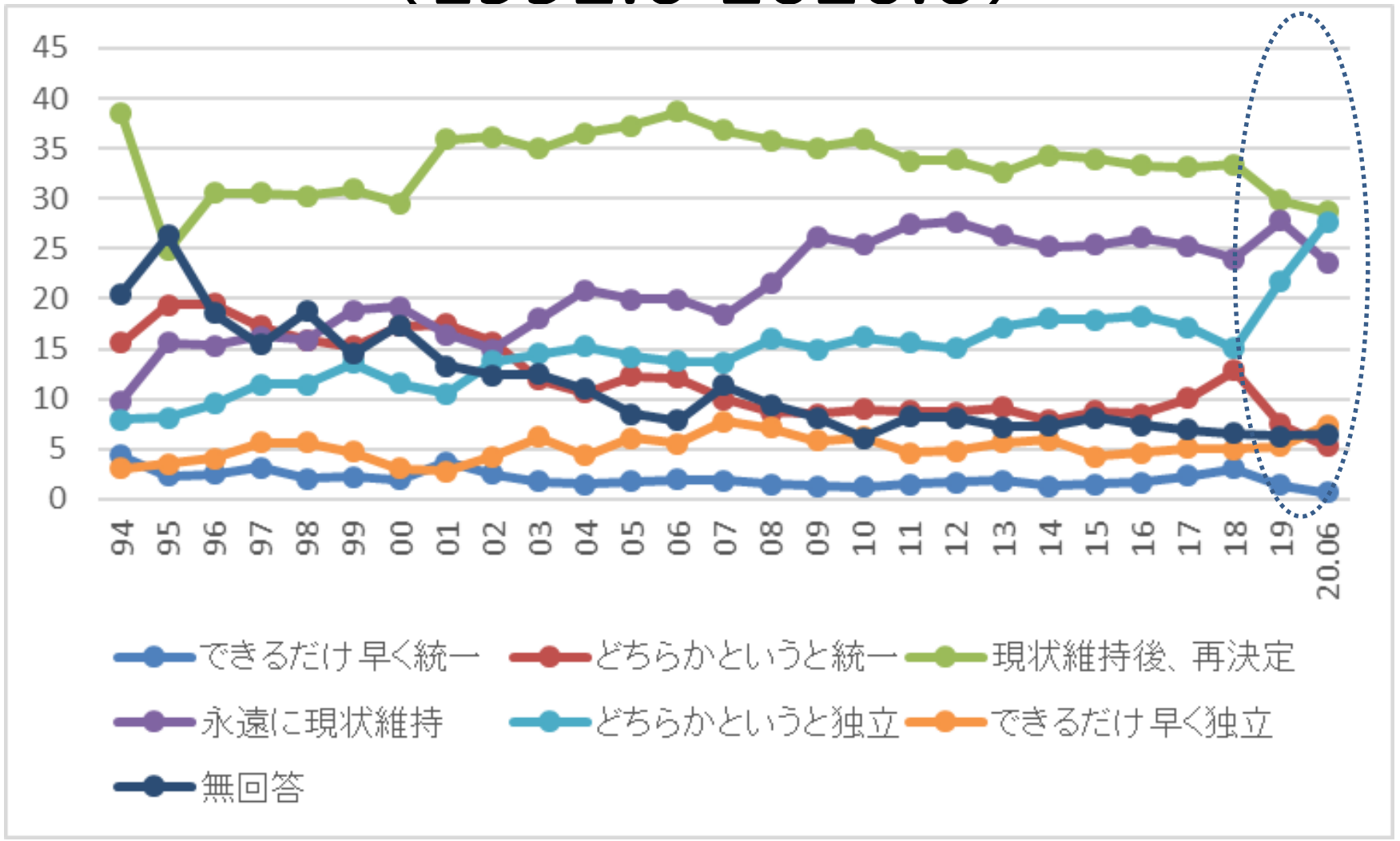
「中国大陸の政府は、台湾の友人である」に対する回答（2012-2020）



出所）「中央研究院社会学研究所『中国効応研究小組』（新聞稿一）」中央研究院社会学研究所、2020年6月3日、<

https://www.ios.sinica.edu.tw/msgNo/20200602-1?fbclid=IwAR1exv-EIhOWYXXT76CqMWpsMEXuAjYW59rYf5jyMLr_lwh6aI1opIgg_vk > O

統一・独立・現状維持の志向（1992.6-2020.6）



出所）https://esc.nccu.edu.tw/course/news.php?Sn=167

おわりに

- 胡錦濤政権は、民進党政権の出現と中国の経済的台頭に合わせて、対台湾政策の主旋律を変化。それは、統一促進から独立阻止へのシフトであり、武力による威嚇のような強硬策から経済的な抱き込みを主とした穏健策へのシフト
- 習近平政権は、胡錦濤政権の政策を継承しつつも、「台湾問題の解決」に向けて、大きな成果を求める傾向。そのため、「恵台政策」から、結局外交闘争や軍用機・軍艦の台湾周回活動・台湾海峡通過などの強硬策に転換
- あたかも「国民戦争」の様相を呈する台湾：中国に対する徹底的な不信感が定着（中国楽観論、中国チャンス論の衰退）。先進国が軒並み失敗する中、政府・国民の一体感が強まった状態で民進党政権が中国からの脅威（ウイルス）に打ち勝ち、自尊心とアイデンティティを高める。
- 米中対立とCOVID-19のパンデミックにより、台湾は対中国依存を低下させた上で、独立派の民進党政権が高い支持率を維持。中国は武力の威嚇への依存を強めるのみ。
- 2008年と2012年は例外的に穏健策で成果を得た選挙であったが、その成果は2020年にほぼ喪失。中国の対台湾政策は、台湾社会の変動を考慮せず、一方的な政策を強行するという自らの失策が招いた手詰まりの状態にある。

参考資料

- 松田康博「台湾のコロナ対策成功で変わる台湾海峡の力学」、東大社研現代中国研究拠点編『コロナ以後のアジア――変動の力学』東京大学出版会、2020年。
- 佐藤幸人・小笠原欣幸・松田康博・川上桃子著『蔡英文再選―2020年台湾総統選挙と第2期蔡政権の課題―』日本貿易振興機構アジア経済研究所、2020年、<https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Kidou/2020_taiwan.html?fbclid=IwAR26K7tsgHy-1uIF59sM5chK3rR2NIT7DQryWfx8Nv34zL5M7mSFxRGpOiQ>。
- 小笠原欣幸「新型コロナウイルスと蔡英文政権」、OGASAWARA HOMEPAGE、2020年4月30日、<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ogasawara/analysis/coronavirusandtsaiadmin.html>。
- 小原凡司「コロナウイルス感染拡大を巡る米中政治戦と国際秩序への影響」、笹川平和財団、2020年4月7日、<https://www.spf.org/spf-china-observer/document-detail025.html?fbclid=IwAR10Z1JQCZQ8w1jBG5rjHCvaIJ9q5B56R4K50eqj1ysQe90htRLASp8UPy0>。
- 鄭仲嵐「台湾はいかに民主的に新型コロナウイルスとの防疫戦を展開しているのか」、nippon.com、2020年4月12日、<https://www.nippon.com/ja/japan-topics/g00853/?pnum=1&fbclid=IwAR3VwRZ3gvo9HGh4YP0XfJB3dmTKtpLlWHhf2Sk641oEXG95HzZPAop4e3o>。
- 松田康博「新型コロナウイルス感染症と中国の対外関係悪化過程」『国際問題』 No.694、2020年10月近刊予定、< https://www2.jiia.or.jp/BOOK/ > 。